

# 向島二の丸小学校 学校だより

京都市立向島二の丸小学校  
校長 成瀬 龍夫

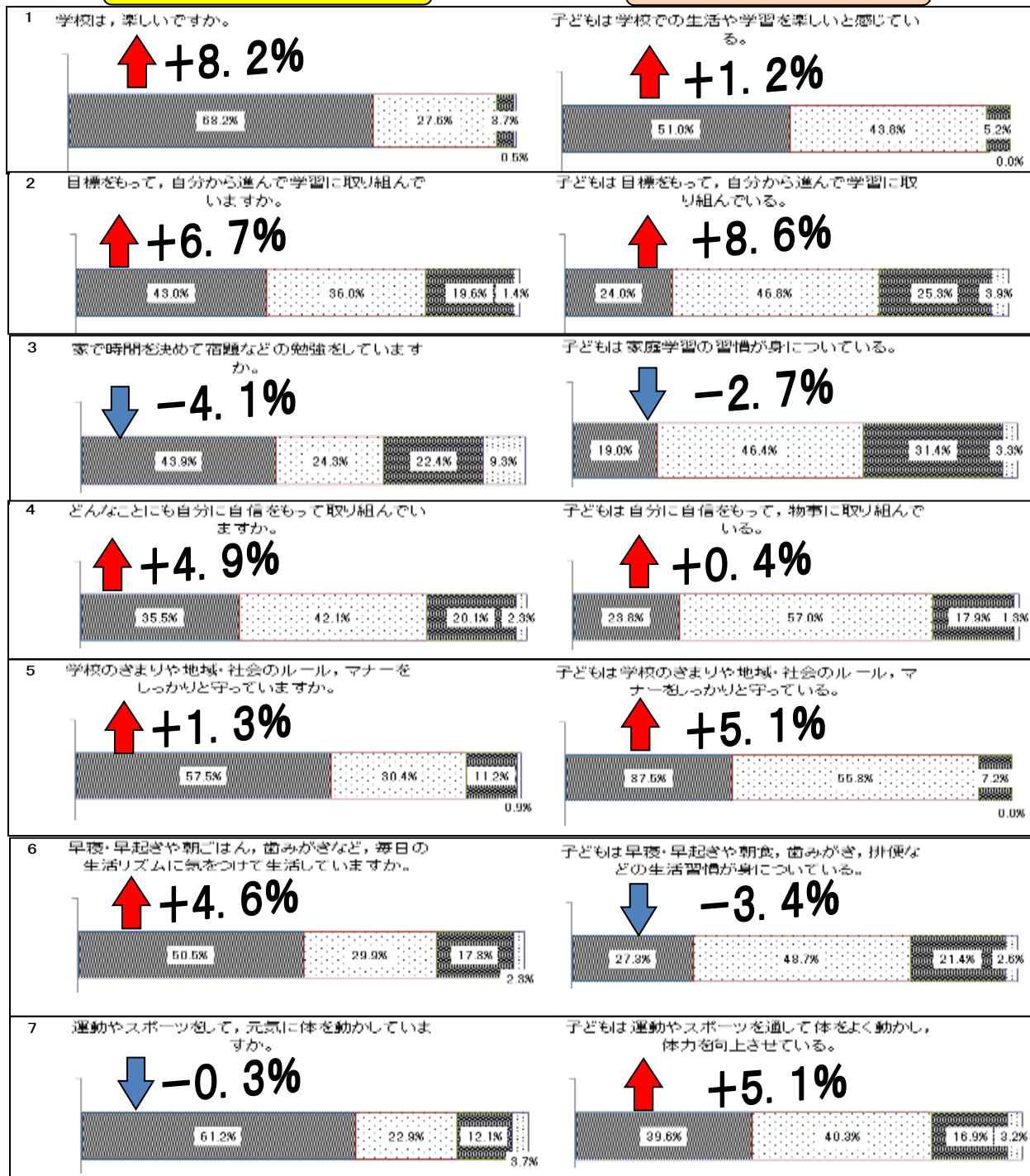
TEL 075-622-9001

FAX 075-622-9045

結果版 H P <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/ninomaru-s/>

## 児童

## 保護者

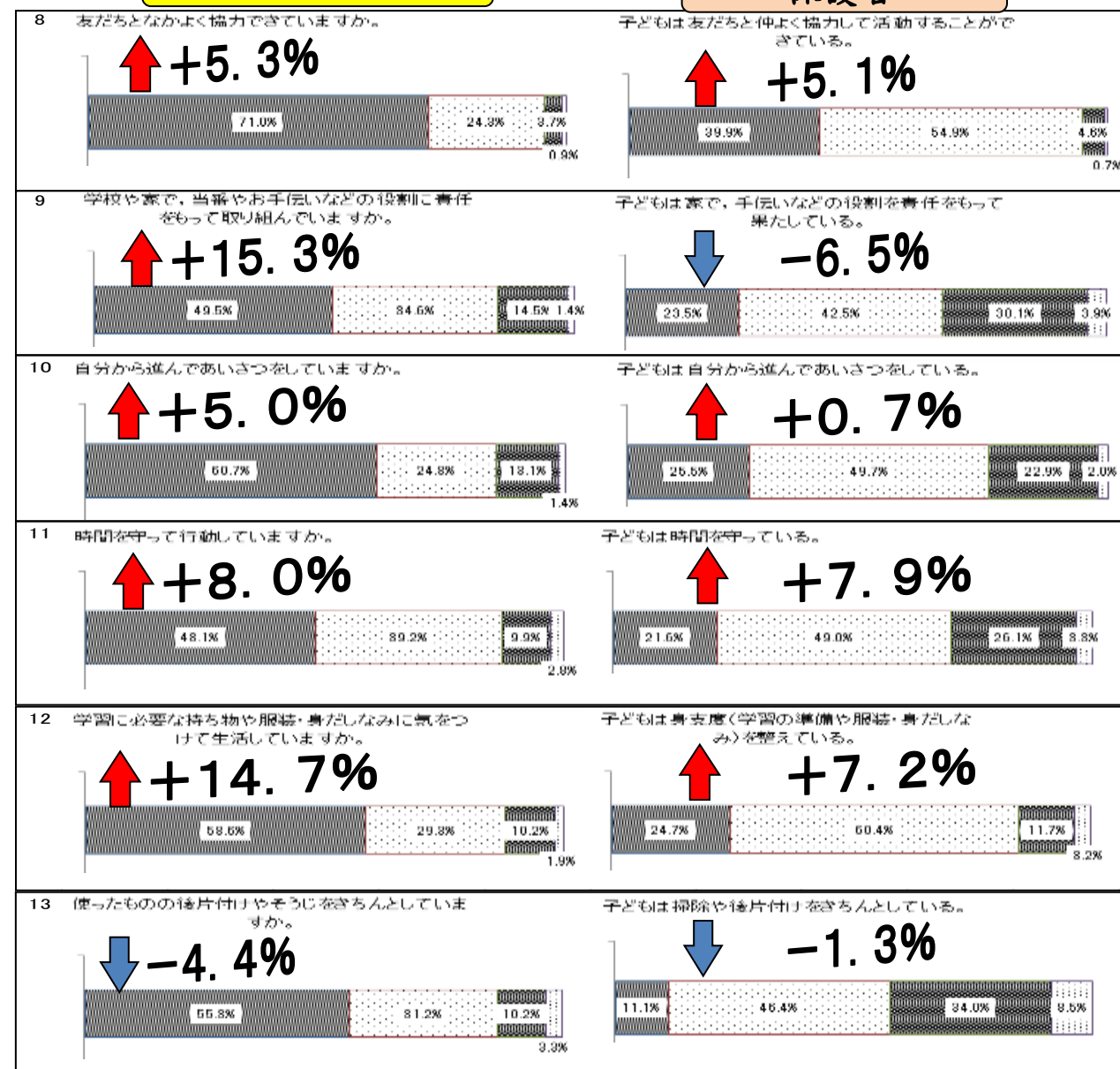


7月に実施しました学校評価アンケートの結果をお知らせいたします。お忙しい中アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

各項目の結果を、児童・保護者と並べて掲載しています。この結果を受け、2学期からの指導に生かしていきたいと思っています。

## 児童

## 保護者



### アンケートの見方

■よく出来ている □大体出来ている  
■あまり出来ていない □出来ていない

### グラフ上の矢印と数値

昨年度との比較(「よく出来ている」「大体出来ている」と回答した割合の差)

裏面へ

# アンケート結果を受けて

昨年度7月実施のアンケート結果と比較すると、全体的に「よくできている」「できている」という肯定的な回答の割合が増えています。学校・家庭での取組が子どもたちの成長につながり、子どもたちの姿を通して結果に表れたと言えます。

その中で、特徴的な項目について、考察と今後の取組について考えてみます。

## 質問項目3：家庭学習の習慣を身に付けること

家庭学習の習慣が身に付いているという肯定的な回答の割合は、児童 68.2%、保護者 65.4%でした。低学年からの学習習慣の定着が学年の進行に伴い学力にも大きく影響してきます。昨年度の便りでもお知らせしましたが、京都市教育委員会から配布されているリーフレット「自学自習のすすめ」を参考に、各発達段階に応じた学習習慣の定着と質の充実を図ることが大切です。

低学年：「与えられた課題を毎日やりきる習慣を身に付ける」

中学年：「与えられた課題＋自分で考えた課題に取り組む習慣を身に付ける」

高学年：自ら取り組むべき課題を見つけ、進んで取り組む『自学自習』の習慣を身に付ける」

来年度、向島秀蓮小中学校となり、家庭学習と授業の連動を今以上に密にした取組が進められる予定です。家庭での学習環境を整え、学習習慣をしっかりと身に付けられるよう、家庭での働きかけをよろしくお願いします。



## 学校運営協議会理事の皆様、地域の皆様の声より

- ・地域での子どもたちの言葉遣いの悪さが気になる。友だちへの話し方と大人への話し方が同じ。相手や場に応じた話し方ができる子になってほしい。
- ・「ありがとう」「すみません」が素直に言える子に育ってほしい。
- ・あいさつは社会人としての基本。今の新入社員も挨拶ができない。小学生のころからしっかりと身に付けさせたい。
- ・家庭での親子のコミュニケーションを意識してとることが大切。コミュニケーションは人として大切なこと。働いて時間が取れない中、いかに意識して話す時間を作るか、親が意識してほしい。
- ・大人の姿を見て子どもは育つ。まずは私たち大人が自ら子どものモデルとしてあるべき姿を見せたい。（あいさつや態度・言葉使い）
- ・保護者の孤立・壁がないだろうか。その姿が他人に対してそっけない態度をとることになっているのではないか。それが子どもにも影響していないだろうか。PTA 活動を通して保護者同士のつながりを広げていければ、街で出会った時の私たち大人の姿も変わるし、地域も変わっていくのではないだろうか。
- ・向島中学校での「中学生トーク」にて、中学生がみな向島のイメージについて「大人が親切」と話していた。そんな温かなイメージをもってもらえるような地域を育てていきたい。
- ・統合することで、子ども・親・地域が混じり、子どもは成長する。親も成長しなければいけない。

## 質問項目9：学校や家庭での役割を責任をもって果たすこと

学校や家庭での役割に責任をもって果たしているという肯定的な回答の割合は、児童 84.1%、保護者 66%でした。昨年度と比較し、児童の肯定的な割合は増加していますが、保護者は減少しています。ここから、学校生活の中では与えられた役割についてできる姿が増えた一方で、家庭での姿に結びついていないことがうかがえます。学校では自分の役割がきちんと与えられていても、家ではおうちの人に「やってもらって当たり前」という意識になってしまっているのかもしれない。下の段の項目にもつながることですが、家庭でも家族の一員として仕事を与えてみてはどうでしょう。個人懇談や学級懇談会の場合を活用し、学校と保護者の皆様で情報を共有し、家庭での実践につなげていきたいと思います。



## 質問項目13：掃除や後片付けがきちんとできること

掃除や後片付けがきちんとできるという肯定的な回答の割合は、児童 86, 5%, 保護者 57.5%でした。両者とも、昨年度より肯定的な回答が減少しています。学校での子どもたちの様子を見ると、そうじに取り組む姿はどの学年も一生懸命で素晴らしいです。一方で「片付け」には課題があるように感じます。特に自分の机やロッカーの中、学級文庫や運動場のボールなどみんなです使うモノの後片付けなどについては、「きちんと元の位置に戻す」「きちんと整理整頓する」ということを、学校でもきめ細かく指導していく必要があります。

「片付けなさい!」と声をかけるだけではなく、「どのように片付ければよいのか」をきちんと教える必要があります。



## 質問項目6：早寝・早起きや朝食、歯みがき、排便などの生活習慣が身に付いている。

生活習慣が身に付いているという肯定的な回答の割合は、児童 80.4%、保護者 76%でした。保護者の方の肯定的な回答が昨年度より減少しています。

児童でも、「あまりできていない」「できていない」と回答した児童が2割近くいます。児童数でいうと40名近くの児童が否定的な回答をしていることになります。特に気になるのは遅刻・欠席です。8:25までに登校し、学習準備をして8:30から朝読書を始めるという学校生活のリズムに乗りきれない児童がいます。10分集中して読書に取り組み、1時間目の学習に臨むという生活習慣を確立させるためにも、早寝早起きの習慣をしっかりと身に付けさせたいです。国語科や社会科など、学習と連動させた読書活動も進めていますので、貴重な時間です。自分の生活をしっかりと自分でコントロールできるセルフマネジメントの能力を育てることが大切です。そのために低学年では「早寝早起き朝ごはん」の習慣を徹底して身に付けること、中・高学年ではそこからさらに自分の生活をしっかりと自分でコントロールできるセルフマネジメントの能力を育てることが大切です。大人になって社会で活躍できる大人の姿をイメージして、小学生のうちに生活習慣とマネジメント能力を身に付けさせたいです。





## 全国学力・学習状況調査（H30.4 実施）結果より

4月17日（火）に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語、算数、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。

生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

### 総合結果（国語、算数、理科）

国語Aは全国平均を上回りました。国語B、算数A・B、理科は全国平均を下回りましたが、複雑な思考と論述の仕方が問われる記述式の問題が多いB問題において、無回答がほとんどありませんでした。日ごろの授業で自分の考えを書いて表現すること、書いて考えるということを積み重ねてきた成果が表れているととらえることができます。

一方で、漢字の書き取りや単純な計算などの基礎・基本の内容で落ち込みも見られます。低学年からの基礎・基本事項の積み重ねと定着が、高学年の学習において大切な土台となります。基礎・基本の力を確実に身に付けつつ、思考・判断・表現する力をいかに伸ばすかが今後の課題です。

### 国語科より

A問題では、「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える」問題【設問2】での正答率は高く、物語を創作する際に構成をどのように工夫したかを考えることができています。また、「目的に応じて必要な情報をとらえる」（設問3）など、必要な情報は何かを考えて読む力には課題が残ります。ここでは、「オムレツの作り方が書かれたページ」と、「オムレツを作った後の感想」を読み、書かれている2人の感想から、うまくオムレツを作るために「オムレツをの作り方」のたくさん書かれた情報の中でどこに着目して読めばよいかとらえる設問でした。さらに、慣用句や漢字の書き取りなど、言語の特質ときまりに関する正答率が低くなっています。読書を習慣付け、語彙力を養うことが大切です。

B問題では、条件に合わせて記述する設問において低い正答率となりましたが、無記述がなく、「何かを書こう」という意欲は育っています。「与えられた条件をすべて満たして書く」力を育むため、授業にも取り入れていきたいと思えます。

- ・書かれている内容を読んで理解する力 → 本や新聞を読む習慣を！
- ・目的に応じて必要な情報をとらえる → 説明書やレシピ、図鑑など、全部を読むのではなく必要な情報を探す習慣を！
- ・理解語彙、表現語彙を増やす → わからない言葉は辞書で調べる習慣を！

### 算数科より

A問題では、数量関係をとらえる問題【設問1,7,8,9】において全国平均を大きく下回る結果となりました。「0.4mの重さが60gの針金が0.2m、0.1mの時の重さ」「円の直径の長さが2倍になった時円周の長さは」「200人のうち80人が小学生の時、小学生は全体の何%か」といった設問の誤答が多く、割合、特に小数を伴う設問に弱さがみられます。

B問題は、文章と図で2～4ページに渡って問題文が書かれ、そのあとに問いが書かれています。図と文を照らし合わせながら書かれている内容をとらえる力、必要な情報を見つけ、計算したり書いたりして説明する力が求められます。

これらのような示された情報や考え方を自分なりに解釈し、計算したり説明したりするといった「読解力・記述力も求められる設問」については、低い正答率でした。

また、「〇〇さんの考え」「〇〇さんの説明」と、他者の考えに合わせて説明するといった設問にも弱さがみられます。単に計算をするなど「一問一答」ではない、設問を読み、解釈して考え、表現する力の育成が求められます。

- ・小数、割合への慣れ親しみ → 日常生活での活用、各学年での確実な定着を！
- ・示された情報や考え方を自分なりに解釈して解く力 → 読解力の向上、考える習慣を！
- ・自分の考えを論理的に考え、説明する力

### 理科より

理科では、「主として『知識』に関する問題」において全国平均を大きく下回る結果でした。「腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉」など、理科用語が定着できていないこと、「ろ紙の適切な操作方法」など実験用具の正しい使い方など、基礎・基本事項で全国との大きな開きがありました。日頃より理科の学習用語や用具の使い方など丁寧に押さえる必要があります。また、複数の情報を関係付けながら分析して考察する問題【設問2(4)】にも弱さがみられます。ここでは、川の水位について言えることを、水位と川の距離を空間的に捉えて考察することが求められました。

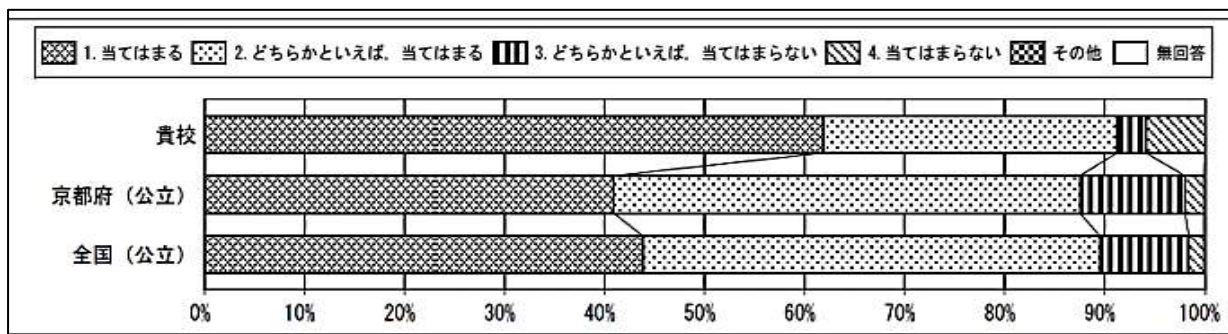
「正しい知識を身に付ける」とともに、「複数の情報を基に考察する」ということを、授業改善を図ると共に、日常生活の中でも理科的事象や用語に興味をもち、意識できるようにすることが大切です。

- ・正しい知識を身に付ける → 専門用語や用具の使い方を意識する習慣を！
- ・複数の情報を関係付けながら分析・考察する力
- ・日常生活の中での理科的な事象に目を向け、意識できるような声かけを！

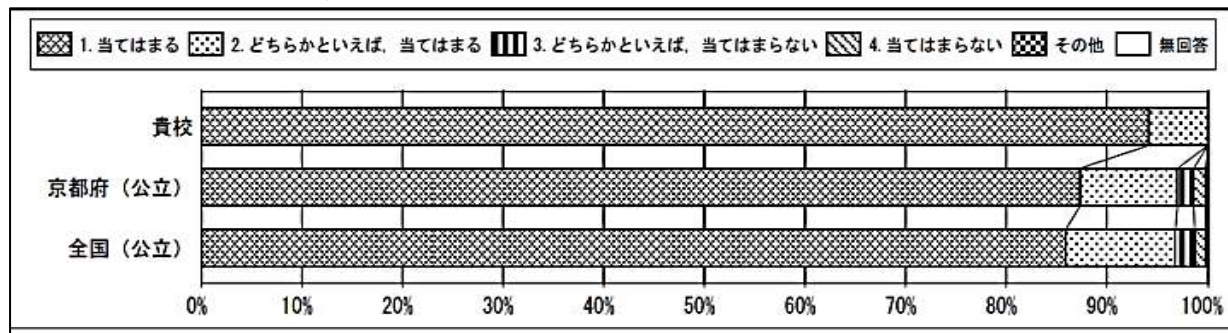


## 児童質問紙調査より

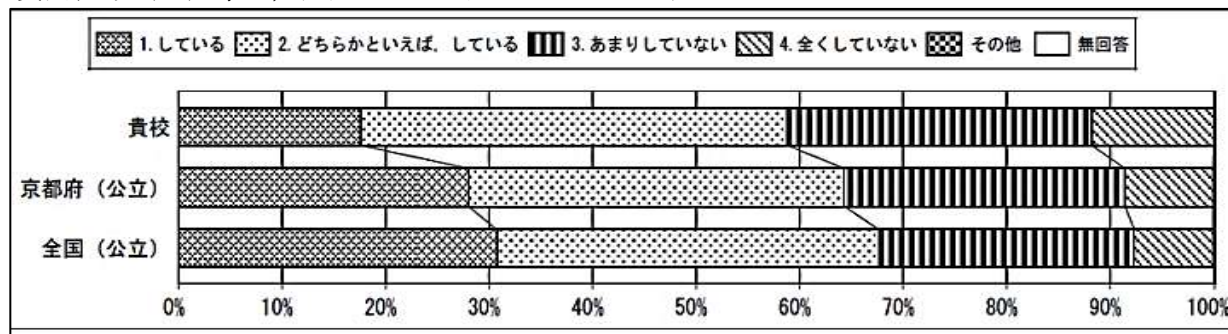
質問番号（４） 学校のきまりを守っていますか



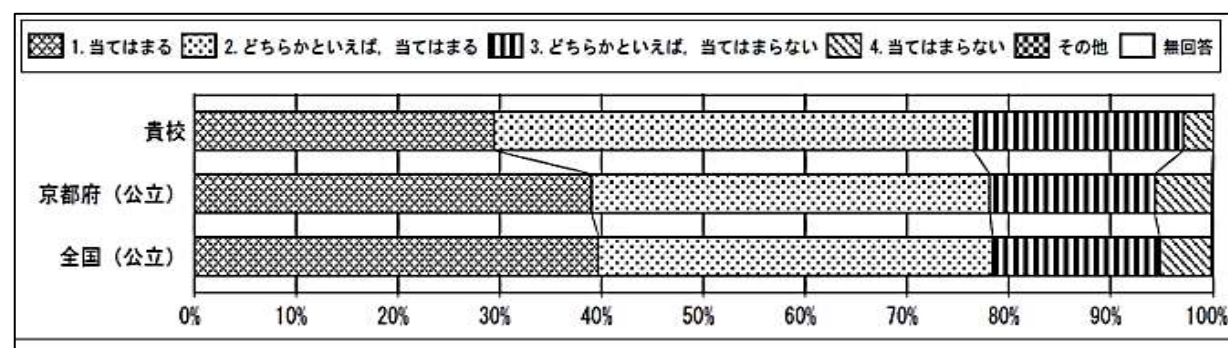
質問番号（５） いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



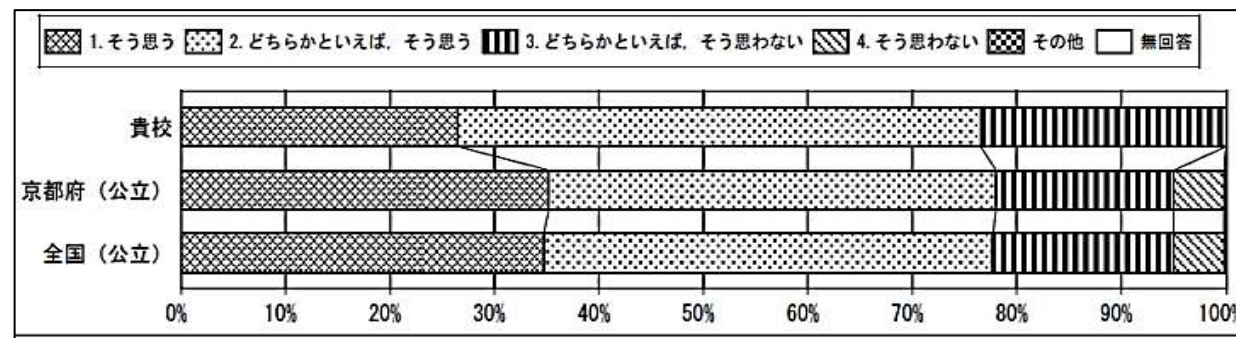
質問番号（10） 家で、計画を立てて勉強をしていますか



質問番号（31） 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずに色々な方法を考えますか



質問番号（57） 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



学校のきまりを守ることや、いじめはいけないと思うなど、人として大切な心がしっかりと育っていることが分かります。学習においては、与えられたことに真面目に取り組む姿勢が育っている一方、学習の計画を立てる、友だち同士で話し合う、分からない問題に出会ったときに粘り強く考えるなど、自分で道を切り拓く力には課題があります。

自分で考え、試行錯誤しながら進めることの大切さや面白さを味わえる授業づくりに努めます。ご家庭でも、家庭学習や家の手伝いなど、自分で計画・実行できることを増やしていけると、より力が伸ばせると思います。



### 全体を通した本校の成果と課題

やるべきことに真摯に取り組む姿勢と、正しいことは正しいと判断できる素直な心が育っています。学習においても、繰り返し取り組んできたことはしっかりと結果に表れています。

課題としては、上でも述べたように、「経験したことがないこと」「複合的に問われること」など、これまでの経験を基に新たに考えを構築することには課題が見られます。素直さは十分に育っていますので、「経験したこと・指示されたこと」以外の出来事に出合った時に自分なりに解を導く力を今後学校生活や授業を通して育てていきたいと思っています。



### 保護者の皆様へ

学校評価アンケートの結果報告でも述べていますが、学習については、低学年できちんと家庭学習の習慣を身に付けること、高学年になるに従って自分で計画し、学習内容を考える力を育てていくことが大切です。家庭生活においても、低学年から自分で考える習慣を身に付けさせたいです。「どうしてそう思うの。」「どうすればいいと思う。」など、子どもに考えさせる経験をご家庭でも積み重ねていただくことが、未経験の出来事に出会っても自ら道を切り拓く力を育むことへとつながります。学校と家庭とが連携して、主体的に考える子どもを育てていきたいです。